



言えない苦しみ～家庭に潜む不平等～

今の世界には年齢、性別、障がい、人種、民族、生まれ、宗教、経済状態などによってあらゆる不平等が存在しています。私たちが紹介する「人や国の不平等をなくそう」という目標は、そのような不平等をなくし、誰一人取り残さない社会にしていくというものです。たくさん存在する不平等のうち、身近に存在する家庭内の不平等について、具体的にはヤングケアラー、ひとり親家庭、犯罪者の親を持つ家庭の現状・政策・わたしたちにできることを紹介します。

1 ヤングケアラー～それは本当に手伝いですか？～

ヤングケアラー、みなさんはこの言葉を聞いたことがありますか？ヤングケアラーとはその名の通り、若い世話をする人、すなわち「大人がするような家事や世話をしている 18 歳未満の子ども」のことです。国の調査では現在**中学生の 17 人に 1 人**がヤングケアラーだとされています。ヤングケアラーの中には勉強や睡眠、遊びの時間がなかったり、自分の希望する進路を選べなかったりする人もいます。そんな中ヤングケアラー支援の先進国であるイギリスでは法律、ヤングケアラーやその家族が集まる場所、学校・警察・医療機関の連携の場、教職員への研修などがあり積極的な支援が行われています。日本では政府でプロジェクトチームが結成されていて、これから様々な支援が行われていく予定です。



ヤングケアラーという言葉は日本であまり浸透していません。また子どもが家族の手伝いをするのは当たり前だという意見もあります。ヤングケアラーの支援での第一歩は「**知ること**」だと思います。どのような苦勞があつて、どのような支援が必要なのか、「知ること」で一緒に不平等のない社会をつくっていきましょう！

参考：[澁谷智子著『ヤングケアラー—介護を担う子ども・若者の現実』2018年出版、厚生労働省 HP](#)

2 ひとり親家庭～“単親”ってそんなに大変なの？～

突然ですが皆さんは「ひとり親家庭」の現状についてどのくらいご存知ですか？実は、ひとり親家庭のおよそ**半数**が「**相対的貧困**」と言い、日本の大多数の人の生活水準を下回っているのです。母子家庭では特に非正規労働の人も多いため、その平均年収は子供がいる全世帯の平均年収の**3分の1**ほどとなっています。また、ひとり親家庭の子どもは家事や炊事、仕事の手伝いなどの負担が増えたり、親とのコミュニケーションをとる機会が少ないために精神的なストレスを抱えたりするなどの様々な問題が存在しています。更に、日本の全ての子どもの半数以上が大学に進学しているのに対して、ひとり親家庭の子どもの大学進学希望率は**46%**ですが、様々な要因により実際の進学率はなんとその**約半分の24%**なのです。このような問題に対し、子どもが 18 歳になるまで健全育成のために支援金が支給される制度などもありますが、それでも生活に困窮する人も多くいます。そこでひとり親家庭の生活を支える活動やランドセル寄付のための募金、入学お祝いの金の寄付など、私たちにもできることはありますので、まずはそのような状況にある人がいることを知り、**相手を大事にする気持ちを持つ**ことから始めて、不平等が少しでも小さくなるよう行動していきましょう。



参考：[厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課](#)、寄付サイトはこちら([認定 NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ](#))

3 犯罪者の親を持つ子供～私は“普通”になれないの？～

事故・事件において加害者家族は、**第二の被害者**とも呼ばれます。しかし日本は未だに加害者家族への支援が手厚いとは言えません。

犯罪者の親を持つ子には、一生涯、数多の苦難が待ち受けます。**経済的苦難**として、被害者への高額な賠償金、引越し費用、失業から自己破産するケースが多いです。**社会的苦難**として、外出困難、進学・就職・結婚が難しくなることがあります。また**心理的苦難**として、いじめや誹謗中傷に苦しんだり、幸せだと感じる度に罪悪感に苛まれたりします。



これまで日本では加害者家族への支援は一切ありませんでした。そこで、2008年にNPO団体「**World Open Heart**」が結成され、加害者家族を対象とした24時間相談窓口が設けられました([ホームページはこちら](#))。彼らの精神的な支えになっている一方で、支援があっても自殺や犯罪に走ってしまうことも多いです。このような状況は海外でも見受けられ、加害者家族への経済的援助を法制化していくことが必要です。

では、私たちはどうすることで彼らの支えになれるのでしょうか。加害者家族は**SNS上の誹謗中傷に苦しんでいます**。第三者である我々に、彼らを執拗に傷つける権利があるのでしょうか？私たちはSNS上で、根拠の無い事を拡散しない、情報を鵜呑みにしないことに気を付けるべきです。負の連鎖を断つためにも日頃から情報リテラシーを意識しましょう。

参考：[週刊女性PRIME 2020/9/28 記事・阿部恭子\(NPO法人World Open Heart 理事長\)](#)

[HUFFPOST 2019/9/19 記事・濱田理央](#)

[刑事弁護 OASIS 2020/10/27 記事](#)

あとがき

今回取り上げた他にも、部落差別による不平等や、長男が家を継ぐという固定観念から生まれる不平等を抱えて、人生の様々な場面において選択肢を失っている人々が沢山います。私たちもこの記事を書くにあたって新たな発見がたくさんありました。決して他人事とは思わずに、今もなお根深く残る不平等について考えてみましょう！

環境 ISO 学生委員会 友常莉子 佐々木美緒 吉村歩美 佐藤大斗 田中怜貴